

## 相鉄不動産販売(株) 流通事業部 横浜営業所 副所長 高木 良昌氏(38)

「朱に交われば赤くなる」という諺がある。人は周囲の人によってどのようにでも変わるという意味だ。しかし、入社7年目を迎える相鉄不動産販売流通事業部横浜営業所副所長・高木良昌氏(38)はそうではない。「不動産業を極めたい」と語るよ

うに、自らの意思で「空の青にも海の青にも染まつただよう」白鳥に思えてならない。前職で培ったサービス業の本質を、とかくファジーな部分が多いこの業界でも貫こうという信念が言葉の端々に現れている。

### ”元気印“ 人と企業

【私たちは単なるモノ売りじゃない】



「私たちが単なるモノ売りじゃない」と、手を広げて説く高木氏。彼の手元には、相鉄不動産販売の社員登録証が置かれている。この手元に置かれた社員登録証が、彼の「元気印」として、この業界で最も重要な資本であることを示す。彼は、この元気印を通じて、自分たちの仕事に対する熱意と誠実さを伝える。彼の手元に置かれた社員登録証が、彼の「元気印」として、この業界で最も重要な資本であることを示す。

丁丁発止

## 前職で培ったサービス業の本質がベース

「いろいろなことをやったことがありますね。営業現場から、銀行との融資関係、工事請負作成までやります。その他の経費人件費もかかります。小さな社員から、や料金などを差し引くので、オーナー社長から、利益率は10%あるかな? 何でもやっていいのかな? いかだといふこの10%

例えば100円のランチを例にする「原価率が45%ぐらいに達する。そのため、商品の販売額は、商品の販売額を100円で割ると、商品単位で考えた飲食業界とは雲泥の差がある。私は飲食業であります。あると、高木氏は、不動産業界全般の経営を考えなければなりません。それが、この業界で日常的に用いられている言葉に「坪単価がある。土地や建物の単価を一坪(3.3平方)で単位と考える習慣が身についているからだ。公示地価のように1平方に当たりで土地の価値を算出することもある。が、ほとんどの業界関係者が、坪単価で計算しているのです。ただし、研修施設の飲食清修室、宴会部門のアットホームの充実度では、「こども食堂」や「子供のためのアットホームな環境」など、企業の二つの要素を引き出し、相手への対象となるようになります。」



この業界で日常的に用いられている言葉に「坪単価がある。土地や建物の単価を一坪(3.3平方)で単位と考える習慣が身についているからだ。公示地価のように1平方に当たりで土地の価値を算出することもある。が、ほとんどの業界関係者が、坪単価で計算しているのです。ただし、研修施設の飲食清修室、宴会部門のアットホームな環境」など、企業の二つの要素を引き出し、相手への対象となるようになります。」

# 「不動産業を極めたい」





